愛知たいようの杜・もりのようちえん・愛知総合看護福祉専門学校・コロポックル・ＮＰＯ法人雑木林物語・
ゴジカラ村役場株式会社からの情報回覧板
発行日：２００９・４・１８

ゴジカラ村NEWS NO.92

ゴジカラ村はひとつ！

http://gojikaramura.jp　おもしろ楽しい情報は　bochi_naga@yahoo.co.jp　まで

現地視察とワークショップの様子。夢が膨らんでいきます。

記者たちの現場

福祉拠点「ゴジカラ村」

高齢者と共に暮らす

マンションや店舗が次々と誕生する長久手町長湫地区。人口増加率で県最高を誇る町の象徴といえる新興地だが、整備された道路から一歩入ると雑木林が姿を見せる。なだらかな林に囲まれているのが福祉拠点「ゴジカラ村」。「雑木林のように、のんびりゆっくり交ざって暮らす」を理念に幼稚園から老人ホームまでが同居する。

村を運営する社会福祉法人「愛知たいようの杜」はいま、村の理念を体現する住宅整備計画を進めている。雑木林の斜面三千三百平方㍍に、賃貸の共同住宅を建設。子ども連れや学生、ＯＬなど多世代が入居して空間を共有しつつ、高齢者の人居を拒まない「高齢者専用賃貸住宅（高専賃）」として県の登録を受ける。地元住民と、入居する住民の意見を基に計画を進めるため詳細は未定だが、世代を問わず声を掛け合う暮らしを想定する。二〇一〇年度のオープンを目指す。

設計担当者の説明を聞く参加者＝長久手町の「ゴジカラ村」で

昨年十一月の構想発表を皮切りに、これまで四回のワークショップを開いてきた。三月一日には、敷地や形態について模型を示して紹介。多くの家族連れが参加し、担当の大須賀豊博さん㌶は「興味をもつ人が多くなってきている」と手応えを感じ取る。

説明会に参加した名古屋市緑区の会社員高崎秀幸さん㌶は「若い人がお年寄りと一緒に暮らせば、相当な数の施設はいらなくなるのでは」と大きな期待を寄せる。

厳しい福祉事情は新事業の背中を押す。有料老人ホームなど特定施設の伸び悩みや、多くの特別養護老人ホーム待機者など、高齢者の受け皿不足は深刻さを増している。また独居の高齢者が増えることもあり、高専賃は新たな受け皿として注目を集めている。

ただ息の長い計画には、将来の環境変化を視野に入れたかじ取りが必要になる。今後はさらに高齢化が進むため法制度や規制が変わる可能性もあり、柔軟な対応が欠かせない。

介護保険サービスを受けられる特定施設は自治体の総量規制で新設は難しいのが現状だが、一定基準を満たした高専賃は特定施設として申請できる。仮に枠が拡大され申請して保険適用を望む場合、今から設備や床面積の条件をクリアしておくことが求められる。

「交ざって暮らす」構想は七年前から。当時は一戸建て住宅を想定していたが、地価急騰などにより断念した。今回は再挑戦となるだけに、関係者は意気盛んだ。大須賀さんは「村の外でも広げていきたい。まちづくりの基準になるのでは」と声を弾ませる。

瀬戸支局　松本　浩司

地域のニーズを見つめ続けるゴジカラ村の新しい住まいづくりの会

第5回目となる「ゴジカラ村もうひとつの新しい住まいづくりの会」が、コーディネーターの愛知産業大学・延藤安弘先生の軽妙なワークショップと建築予定地の現地視察が、4月11日（土）に行なわれました。高齢者や若者達が適度の助けあいと協働をしながら「混ざって暮らす」ミックスチャーハウスへの関心が少しずつ高まりつつあります。手作り住まいに興味のある方は、ぜひご参加を！次回は、5月24日（日）時間は未定。（お問い合わせ：0561－63－2739：大須賀）